

## 企画展示

### 紀行作家シドモア写真展

—明治時代の宮島がよみがえる—

広島市公文書館・廿日市市宮島歴史民俗資料館と共同して、企画展示「紀行作家シドモア写真展—明治時代の宮島がよみがえる—」を宮島歴史民俗資料館で開催しました(平成25年11月12日~12月15日)。

米国の紀行作家エリザ・R・シドモア(1856~1928)は、明治17年(1884)27歳の時に初めて来日して以後、何度も日本を訪れ、ワシントンのポトマック河畔の桜の植樹にも関わった親日家としても知られている人物です。『センチュリー・マガジン』誌1896年8月号に寄稿した「不朽の島」“An Island Without Death”の取材のため、明治27年(1894)に宮島で写真を撮影しました。この写真は、当時日本で販売されていた絵はがきや出版物の写真とは異なり、建物や景色だけではなく、



明治27年当時の宮島とそこに暮らす人々のありのままの姿を撮影した、貴重な記録であるといえます。



これらの写真は、スミソニアン自然史国立博物館国立文化人類学資料館が所蔵しています。

宮島学センターは歴史資料等をもとに、シドモアの写真を解説するキャプションを作成しました。宮島歴史民俗資料館は明治の宮島と現在の宮島を比較し、シドモアがどこで写真を撮影したのかを

示す地図を作成しました。広島市公文書館はシドモアの半生をまとめたビデオを作成して、モニターで紹介しました。

三者の共同作業により、シドモアが「祝福された島」、「平穏と詩情があふれ、まるで進歩的な近代の日本から一世紀さかのぼったように感じる」「死や悲しみがほとんどりはらわれた」=「不朽の島」と表現した明治時代の宮島の姿が、この企画展でよみがえりました。展示期間中、宮島歴史民俗資料館には、延べ2134名の方が来場されました。



## 公開講座

平成25年11月27日(水)には、展示の関連事業として公開講座「エリザ・シドモアと明治の宮島」を実施しました。講座は3部構成で、第1部は近世・近代の宮島の旅について、大知徳子宮島学センター助教が紹介しました。第2部は中川利國広島市公文書館長が、エリザ・シドモアが見た明治の宮島について紹介しました。

第3部は会場を宮島歴史民俗資料館に移して、写真展の観覧とギャラリートークをおこないました。ギャラリートークの解説は、中川利國館長、船附洋子さん(宮島歴史民俗資料館)、大知助教がおこないました。この講座は87名の方が受講されました。



## 図書館企画展示

### 旅人が見た厳島 —忘れられた風景—



平成 25 年 7 月 1 日 (月) から 16 日 (火) まで、広島キャンパス図書館において、企画展示「旅人が見た厳島 —忘れられた風景—」を開催しました。

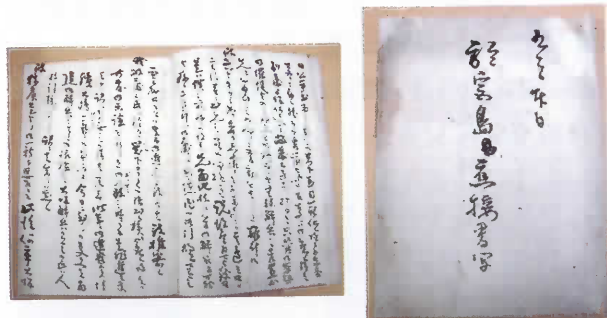
この展示は、学芸員養成課程の授業科目「博物館実習」の受講生である国際文化学科

4 年の山本直人さんや、金丸佳菜子さん (3 年生)、坂上知美さん (2 年生)、山岡陽さん (経営情報学部経営学科 2 年生)、中川瑛梨さん (大学院生) が企画・運営をおこないました。展示期間中に、学生による合計 5 回の展示説明会も実施し、延べ 483 名の方が来場されました。



この展示では、近世・近代に厳島を訪れた人々の日記や紀行文を読み解き、旅人が楽しんだ宮島の風景や、土産物等について関係する資料を展示しました。

また、近年新たに収集した史料「於宮島留応接書写」も公開しました。これは、慶応 2 年 (1866) 大願寺における勝海舟と長州藩との停戦交渉記録の写です。所在が分かっている写として大変貴重な史料です。



その他に、飯田勝彦氏が所蔵されている万延 2 年 (1861) の「三都惣役者大見立」もお借りして展示しました。

## 企画展示

### 「クイズで学ぼう! 宮島トラベル」

廿日市市立宮島小学校・中学校文化祭 (11 月 2 日) で、宮島学センター所蔵資料展示「クイズで学ぼう! 宮島トラベル」を開催しました。これは 7 月に開催した図書館企画展示の内容をもとに、江戸～明治時代の宮島に関する資料の写真パネルや、紀行文等を展示したもので



です。当日は、こどもたちが楽しく学習できるように、金丸佳菜子さんがクイズ形式で解説をおこないました。この展示には、児童・生徒、教職員、保護者など約 120 名の方が来場されました。

### クイズ

宮島には今も昔も数多くのシカがいます。かつて、シカを傷つけないために宮島にすることが禁止されていた動物は何でしょうか?

- ①イヌ ②サル ③ウマ

### 答え

①イヌ でした!

#### クイズの解説

シカは神の使いとして大切にあつかわれており、イヌによって傷つけられることを防ぐため、宮島ではイヌを飼わず、外からイヌが入り込むと島民が捕まえて対岸に放していました。現在は、飼うことができます。

ちなみに、サルは江戸時代には宮島にたくさん生息していました。当時の絵図にも描かれています。また、ウマは「神馬」として厳島神社に贈られることもあり、馬を飼うための施設 (厩・神馬舎) もありました。神馬舎は現在、厳島神社の東側にあり、中には木製の馬が置いてあります。

この展示の  
マスコットキャラクター「旅するもみじ君」は  
中川瑛梨さんがデザインしました





## 受託研究事業

### 旅行企画「県立広島大学教授による 〈宮島学〉厳島神社の舞楽奉納」

JR西日本、日本旅行と連携して平成25年9月5日・6日に旅行企画「県立広島大学教授による〈宮島学〉厳島神社の舞楽奉納」を実施しました。参加者は31名でした。次にツアーの行程を紹介します。

#### 9月5日(木)

松井輝昭人間文化学部教授による講義「宮島の神仏分離」をおこなった後、紅葉谷公園や四宮神社を訪れました。この日は夕方から宮島の民俗行事である「たのもさん」（毎年旧暦の8月1日に実施）がおこなわれました。「たのもさん」は、宮島の人々が農作物に対する感謝の念を表す行事で、「たのも船」という手製の小船を、対岸の大野に向けて流します。ツアーの参加者もこの行事に参加し、センターで用意した「県大号」を厳島神社の社殿から大鳥居に向けて流しました。



#### 9月6日(金)

厳島神社に参拝し、特別奉納の舞楽「蘭陵王」を見学しました。神社の中では樹下文隆人間文化学部教授が参加者を案内しました。午後は大願寺に移動し、ご住職による講話と仏像拝観をおこないました。また、大願寺が所蔵する戦国～江戸時代の古文書を特別に閲覧し、松井教授が解説しました。



## 平成25年度「地域文化学(宮島学)」

平成25年度の「地域文化学(宮島学)」は、日本史、日本文学、日本芸能史、中国文学などを専門とする教員が担当しました。国際文化学科2年生を中心に40名の学生が受講しました。

6月1日には、宮島を散策するフィールドワークを実施し、7月24日には厳島神社の管絃祭に参加するフィールドワークを実施しました。

また、6月3日には、特別講師として菅村亨広島大学教授(日本美術史)をお迎えし、「大聖院蔵『厳島図屏風』について」というテーマで講義をしていただきました。

日程	テーマ	講師
4/15	「地域文化学(宮島学)」について	大知 徳子
4/22	神仏分離令から厳島神社を守った人々	松井 輝昭
5/13	神仏分離令から厳島神社を守った人々	松井 輝昭
5/20	近世・近代の紀行文からみる宮島	大知 徳子
5/27	「厳島八景」の成立とその伝播	柳川 順子
6/1	宮島でのフィールドワーク	
6/3	特別授業 大聖院蔵「厳島図屏風」について	広島大学 菅村 亨教授
6/10	厳島合戦の実像	秋山 伸隆
6/17	中世の舞楽	樹下 文隆
6/24	中世の厳島と能楽	樹下 文隆
7/1	王朝文化継承者としての平家の人々	西本 寮子
7/8	図書館での展示見学 (展示を担当した学生による展示説明会)	
7/22	絵や文章で描かれた宮島の移り変わり	松井 輝昭
7/24	管絃祭フィールドワーク	
7/29	学生によるレポート報告会	学生

期末にはレポート報告会を実施しました。報告のテーマは次のとおりです。

テーマ	発表者
管絃祭の概要と居管絃祭について	桑原 美賀、正木 望
厳島合戦の通説と実像	福岡 千晃
厳島における神仏分離の重要性	小本 仁美
神仏分離と宮島の人々	坂上 知美
神仏分離令～なぜ厳島神社は“朱塗り”でなければいけなかったのか～	馬庭 利央

## サテライトキャンパスひろしま「地域文化学(宮島学)」

平成25年度前期に、サテライトキャンパスひろしまで「地域文化学(宮島学)」を開講しました。この授業は広島経済大学や呉工業高等専門学校の11名が受講しました。

日程	テーマ	講師
4/20	第1回 「地域文化学(宮島学)」について	大知 徳子
	第2回 宮島の祭	
	第3回 王朝文化継承者としての平家の人々	西本 寮子
4/27	第4回 絵や文章で描かれた宮島の移り変わりI	松井 輝昭
	第5回 絵や文章で描かれた宮島の移り変わりII	
	第6回 中世の厳島と能楽	樹下 文隆
5/11	第7回 「厳島八景」の成立とその伝播	柳川 順子
	第8回 中世の宮島と廿日市	秋山 伸隆
	第9回 毛利元就の厳島信仰と石見銀山	
5/18	第10回 神仏分離令から厳島神社を守った人々I	松井 輝昭
	第11回 神仏分離令から厳島神社を守った人々II	
	第12回 近世、近代の紀行文からみる宮島	大知 徳子
5/25	第13回～第15回 宮島でのフィールドワーク	



## 宮島観光英語ボランティアガイド講座

### 宮島観光ボランティアガイド講座(英語)

宮島観光ボランティアガイド講座(英語・全7回)を実施しました。講師はリチャード・ウェバーさんです。この講座では、宮島の観光案内の知識を身につけ、外国人観光客を英語でガイドできる力を養いました。

また、講座とは別に、発音練習やフィールドワークを重ね、11月24日と30日に現地で実践編をおこないました。



日程	テーマ
10/8	Meet the participants; explain the course; Miyajima practical quiz; introduction to Miyajima
10/15	First virtual tour of Itsukushima Shrine, part one; names to remember; expressions to guide; introduction to Shinto and Buddhism; relationship of temples and shrines
10/22	Virtual tour of Itsukushima Shrine, part two; numbers to remember: practice key vocabulary and expressions to guide
10/29	History of the Ootorii, Senjokaku/Toyokuni Shrine, and the Five-storied Pagoda; virtual tour; practice key vocabulary and expressions to guide
11/5	History of Daiganji and Daishoin temples; virtual tour; shopping for souvenirs; foods of Miyajima; other shrines, temples, and significant places to visit; practice key vocabulary and expressions to guide
11/12	Putting it all together; final virtual tour; practice expressions learned; Q & A
11/19	Students' virtual tours; comments and corrections
10/19	日本語での事前学習会(講師:大知徳子)
11/7	発音練習会I(講師:天野みゆき)
11/14	発音練習会II(講師:天野みゆき)
11/17	宮島での英語ガイド練習会(講師:堀益芳子さん)
11/24	宮島観光ボランティアガイド講座(英語)実践編
11/30	宮島観光ボランティアガイド講座(英語)実践編

実践編では、アメリカ、イギリス、オランダ、エジプト、サウジアラビア、ブラジル、ポーランド、ロシア、中国、マレーシア、インドネシア、タイから宮島を訪れた観光客に対して、宮島棧橋、海岸通り、石鳥居、大鳥居、厳島神社、大願寺、千畳閣、五重塔、紅葉谷などを案内しました。

### 学生の感想

厳島神社を案内した際に、アメリカ出身の男性が「外国人でも神社でお祈りができますか?自分は日本のために祈りたい」と言ってくださり、感動しました。英語ガイドの魅力は、外国人の考えを聞くことができる点にもあるのだと実感しました。また、ガイド用の知識だけではなく、自国・他国に対する興味や敬意、自分の考えを持つことが重要だと思いました。(M. N)







## 宮島観光ボランティアガイド講座(日本語)

平成25年度は、英語でのガイドだけではなく、学生が日本人の観光客を案内する観光ボランティアガイド講座も実施しました。「地域文化学(宮島学)」の授業を受講した学生5名が、放課後に全4回(10月9日、16日、23日、11月6日)の講座を受講し、現地での練習を重ねました。11月24日、30日には宮島の御笠濱(大鳥居正面と厳島神社周辺)、石鳥居周辺、千畳閣、五重塔で待機し、訪れた観光客を案内しました。



千畳閣の前でガイドをする様子

## 全国厳島神社参詣記⑤

### 島根県・厳島神社

所在地：島根県大田市温泉津町小浜

小浜の厳島神社については、本多博之氏が「毛利元就の温泉津支配と輝元の継承」(『日本歴史』743、2010年)で紹介している。同氏は近世後期に成立した石見の地誌にある棟札写を根拠に、永禄11年(1568)4月に毛利氏の温泉津奉行武安就安・児玉就久によって建立されたと推定する。

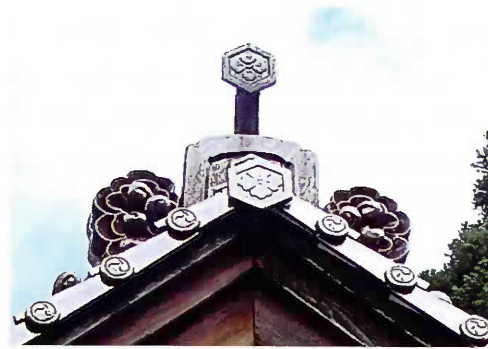
温泉津は港町で、石見銀山で採掘された銀を積み出しており、毛利氏にとっては重要な拠点の一つであった。宮島の厳島神社は、毛利元就をはじめ毛利氏から厚い信仰を寄せられていた。海の道を守護する厳島神社を港町である温泉津に勧請したのだろう。



温泉津の厳島神社も宮島の厳島神社の大鳥居同様に両部の鳥居を置いている。しかし、朱塗りではなく白木のままである。

本社の前のしめ縄は、出雲大社と同じく左縫いの「大黒締め」であり、屋根には出雲大社の御神紋である二重亀甲剣花角が見える。宮島の大鳥居と出雲「大黒締め」。二つの文化が融合した形に思えた。

(大知 徳子)



## 平成25年度公開講座・講演会

### 宮島学センター公開講座

(廿日市市教育委員会・廿日市市生涯学習推進本部と共催)

会場：国民宿舎みやじま杜の宿(宮島)

受講者：延べ145名

日程	テーマ	講師
6/19	聖護院道増と宮島	秋山 伸隆
11/27	紀行作家シドモア写真展関連講座 「エリザ・シドモアと明治の宮島」	広島市公文書館 館長 中川 利國 大知 徳子

### 宮島学センター公開講演会

(廿日市市教育委員会・廿日市市生涯学習推進本部と共催)

会場：はつかいち文化ホールさくらびあ

講師：松井 輝昭

演題：平安時代末期の厳島神社の隆盛と神主佐伯景弘

受講者数：127名

廿日市市や広島市佐伯区の方を中心に多くの方が来場され、会場は満員となりました。ありがとうございました。



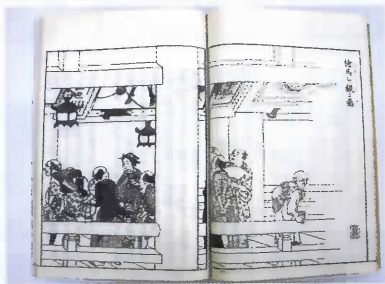
研究余録⑤

厳島神社の東廻廊

厳島神社の東廻廊は、平成26年1月15日から部分修理を開始しています。7月からは平舞台も修理される予定です。東廻廊は、神社に入って客人社を少し通りすぎた辺りです。平成26年2月に参拝したところ、すでに本来の廻廊の板は外されており、仮設の廻廊を通過して御本社へ向かいました。

修理される箇所は、左手に「鏡池」を臨み、毎年旧暦六月十七夜におこなわれる管絃祭の折には、御座船と江波の漕船が進入して三回転する「枅形」と呼ばれる部分です。宮島の来島者は年間400万人を越え、そのうちの多くが厳島神社に参拝しています。参拝者が歩くことで廻廊の傷みが激しくなったということでしょう。

かつては床板の保護のために入口で草鞋に履き替えていましたが、現在は土足のままで参拝することができます。これは国宝の床板の上に別の床板を重ねて保護しているため、靴を履き替えることなく歩くことができるからです。



「絵馬を観る図」

（『芸州厳島図会』、天保8年（1837）、宮島学センター所蔵）

また、かつて厳島神社の廻廊には、「古美術の有名な画廊」と形容されるように大型の絵馬が、たくさんかかっていた。

江戸時代後期のガイドブックである『芸州厳島図会』には、廻廊を通る参詣者が、絵馬を見上げる様子が描かれています。

『宮島町史』（建築編）によると、明治33年（1900）8月19日、暴風と高潮で廻廊などが大破したため、社殿や廻廊にかけられていた絵馬が流出・破損しました。その後、特別保護建造物になったことにもなう明治・大正の大修理工事に際して、これら絵馬・扁額は廻廊から取り外され、千畳閣へ移されました。

東廻廊は、基本的な部分は守りながらも、実は長い時をかけて少しずつ、時代に合わせて変化を遂げてきました。廻廊を歩く際にはぜひ、昔の姿にも思いを馳せてみてください。（大知 徳子）



千畳閣内部の様子



宮島学センターに  
資料を御寄贈いただきました

宮島学センターに資料を御寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます。

■木本 泉さん

小椋春平『小説 佐伯景弘』（広島市佐伯区役所、平成24年）の注釈を執筆された木本泉さんから、同書30冊をご寄贈いただきました。

■佐伯 勲さん

水墨画家の佐伯勲さんから、宮島の弥山と鳥々を描いた作品をご寄贈いただきました。



編集後記

宮島学センター通信第5号をお届けします。今年度は書籍『宮島学』を発行しました。センターが開所してから5年目となる節目の年に、研究成果の一部をまとめることができましたこと、皆様にお礼申し上げます。書籍は全9章からなり、本学の「地域文化学（宮島学）」の授業をもとにして、7名の教員が執筆しました。お手にとっていただけましたら幸いです。

なお、平成23年・24年度のセンター長を務められた松井輝昭先生が、今年度で退職されます。先生には引き続きご指導をいただきたいと思っております。（〇）

編集・発行

宮島学センター通信 第5号

平成26年3月15日発行

県立広島大学宮島学センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号

TEL.082-251-9550

E-mail:miyajima@pu-hiroshima.ac.jp

ホームページ:

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/miyajimagaku/index.html>